



# 永福学園通信

令和6年9月20日

第5号

東京都立永福学園  
統括校長 緒方直彦



## 宿泊防災訓練を終えて



9月6日から翌日朝にかけて、今年度の宿泊防災訓練を実施しました。

今年度は、就業技術科第2学年生徒と肢体不自由教育部門第1学年生徒及び保護者、教職員で宿泊訓練を行いました。両部門の生徒間の交流もあり、自分自身を守る「自助」だけでなく、永福学園の生徒同士が励まし合い、助け合う「共助」の意識も学べた訓練でした。

さて、日本は、地形や地質、気象等の自然的条件から、台風や豪雨、地震、津波、火山噴火等の災害が発生しやすい国土であると国も示しています。そして、日本の国土の特徴を鑑み、広く国民が災害についての認識を深めるとともに、災害に対する備えを充実させ、災害の未然防止と被害の軽減を図るために、9月1日を防災の日とし、8月30日から9月5日までを防災週間と定め啓発に努めています。

夏季休業中（8月9日）に、宮崎県南部で最大震度6弱の南海トラフ地震が発生しました。首都直下地震も今後30年間に70%の確率で起きると言われています。

30年後に起こるのではなく、いつ起きても不思議ではないということです。日本及びその周辺では、年間約5000回以上の地震が発生しているというデータもあります。私たちが、気が付かない小さな地震は、ほぼ毎日、日本のどこかで発生しているということになります。

「正常化バイアス」という言葉があります。この言葉の意味は、多少の異常事態が起こっても、それを正常の範囲内としてとらえ、心を平静に保とうという働きです。そのため、危険が迫っていても、「まだ、大丈夫だ。」「そろそろ治まる。」など、危険だと認識せずに、逃げ遅れたりすることにつながる恐れがあります。

さらに、「同調性バイアス（集団と異なる行動をとりにくい心理）」が加わると、周りが避難していないから自分も逃げなくても大丈夫だと思ってしまい危険はさらに増すことになります。

今年度の宿泊防災訓練を実施し、改めて、児童・生徒の安全を守るには、学校の教職員全員が、適度な緊張感を常にもち、いざという時に、正常化バイアスや同調性バイアスに陥らないために、実際に想定した避難訓練の工夫を図る必要性を感じたところです。

そして、実際に災害が発生した時に、児童・生徒及び教職員を守るためには、校長として正しい判断と指示が適切にできるよう、私自身が一番訓練しなければならないことを自覚した次第です。

校長 緒方 直彦

### 【令和6年度学校評価について】

学校経営計画に掲げる「安心・協働・伸長」のある学校の実現に向け、保護者の皆様に学校評価の御協力をお願いいたします。実施期間、方法などの詳細は、後日紙面及びマチコミメールにてお知らせいたします。



9月6日(金)から7日(土)  
一泊二日宿泊防災訓練を終えて



本校では年間を通して地震や火災、Jアラートなど、全ての訓練を就業技術科、肢体不自由教育部門、大塚ろう学校永福分教室の3つの教育部門合同で実施しています。8月末は全教職員対象に、今年度2回目の「不審者対応訓練」を高井戸警察署の方々から指導・助言していただきながら行いました。

学校におけるあらゆる場面を想定して、どのような場合でも、まずは教職員が落ち着いて組織的な行動がとれるように、そして、児童・生徒を安全に導くことができるように、学校防災教育について今後も訓練と改善を積み重ね、備えていきます。

宿泊防災訓練に際し、御協力いただきました保護者の皆様、地域・自治体等の皆様、ありがとうございました。

以下、両部門の宿泊防災訓練の様子をお伝えいたします。

肢体不自由教育部門 主幹教諭 佐々木 彩

【就業技術科】

2学年生徒75名が参加しました。事前学習では、教員が災害の写真を映し出す度に「もし災害が起こったら・・・」と語りかけることで、生徒たちは真剣に映像を見つめていました。訓練当日は、各専門教科で毛布や段ボール、食料などの備蓄を友達と協力して声をかけ合いながら準備することができました。

肢体不自由教育部門の生徒たちとの合同避難所見学では、「スリッパ」「レインコート」「ランタン」などの防災グッズ作りや、寝床のセッティングの様子を紹介することができました。工夫をして作った防災グッズは、肢体不自由教育部門の生徒たちから大きな拍手をいただきました。「ランタン」は、就寝時に寝床に置かれており、「防災」という緊張した活動の中で、生徒たちの心を暖かく癒してくれる灯となっているようでした。

この活動が、生徒たちの今後の防災意識を高めると共に、「自助」「共助」の心をより育て、生活に活かされることを願います。

【教諭 金子由美】



【肢体不自由教育部門】

今年度から高等部1年生通学生が対象の行事となりました。任意参加にて6名が参加し、医療的ケア対応のため保護者4名にも付き添い等の御協力をいただきました。

食事は学校の備蓄品又はお預かりしている備蓄品となり、実際の災害時を想定したものとなりました。薬もカバンに常備している災害時薬にて対応しました。

消火訓練では水消火器で火の的をねらう体験をし、水の勢いに迫力を感じました。防災オリエンテーリングでは、校内に配置されている消火器の位置や数を確認しました。

居室見学では、肢体不自由教育部門・就業技術科生徒のそれぞれの様子を見学し、災害時の様々な工夫を知ることができました。

【主任教諭 宮崎 卓矢】



<保護者の皆様へ 名札着用のお願い>

防犯上の観点から、校舎内では、名札の着用をお願いいたします。お忘れになった方は、経営企画室の窓口においてある、名札をお使いください。御理解・御協力をよろしくお願いいたします。

東京都立永福学園

副校長 山崎 裕之 安田 泉 松本 忍  
主幹教諭 池田 佳信 池田 奈央子

〒168-0064

東京都杉並区永福1丁目7番28号

電話 03-3323-1380

<https://www.eifuku-sh.metro.ed.jp/>